

平成29年7月19日

彩の国いきがい大学校友会連絡協議会
平成29年度第1回社会活動部委員会議事録

日時 平成29年7月19日(水) 13:30~16:00

場所 埼玉県県民活動総合センター 第3会議室

出席者 玉岡会長 事務局:斎藤 大久保 浦和:金子、倉兼 熊谷:田島、山崎

川越:戸井、加来 久喜:元浦、宮崎 蕨:宮崎、相馬 ob萩原

東松山:松本、重田 伊奈:森(熊谷代理) 春日部:清水、菊地

入間:水野(部会長) 足立(副部会長) 岡崎

1. 玉岡会長挨拶

ボランティアは一人で始めたものが、二人三人と賛同者が増え団体となっていくものです。また、人のために尽くすのが基調だと思っています。

2. 自己紹介

3. 名前の確認

4. 前年度の引継

部会長より、前年度の委員会より下記3項目について、継続して実施していくように申し送りがあった。基本的にはこれを継承して、論議していきたい。

(1) ボランティア活動名簿の有効活用

(2) 現場体験見学会の継続

(3) 来年度委員1名は、前年度の経験者選出の要望

5. 活動方針

今年度は、先行事例の活用という事を考えて行きたい。新規に活動をしたいという人に対して先行事例を参考にして活動が出来るような資料や仕組みがあれば、現在活躍している人達と同じように出来るようになるでしょう。先行事例として、ボランティア活動名簿がありますが、活用状況に違いがあるように感じました。それぞれの学園の活用状況についてお伺いします。

浦和:資料として、各期に渡していない。全体に高齢化しているので、新規のボランティアを始めるように働きかけるのは難しい。連協としては、共同募金を行っている、各期やクラブが主体で活動している。

熊谷:現在の資料は使いにくいのであまり活用はされていない。このような資料は毎年更新する方が良い。県連として、更新のための調査を今年度行わなくても、熊谷として再調査行いたい。また使用しやすいような、まとめた資料を作成する予定です。

川越:各期にデータを渡している、活用されていないようだ。活動は各期に任せている。

久喜:各期の会長にコピーを渡してあるが、活用状況は不明。募金活動などを行っている。

蕨 :CDを各期に渡してある。

東松山:資料は特に活用していない。活動は各クラブが中心となっている。都幾川河原の清掃は年に4回行っている。

伊奈:伊奈ボイスの運営と伊奈連協は別組織として運営されている。伊奈連協はボランティア団体の発表会を毎年実施している、数多い団体より15程度を選出して行っている。

伊奈ボイスでは、受け入れ側と実施団体を両方登録し、希望と受諾のマッチングを行っている

が、希望する施設が減少している。活動は、未登録団体も行っていて、その団体数も結構ある。現在未登録団体の調査を行う予定。

春日部：資料は使用しづらい、再編集が望ましい。活動は収集や寄付金をイベント時に集めるなどを実施。社会協議会とマッチングしていきたい。

入間：連協の活動としては、古切手などを集めて寄付したり、義援金を集めて寄付を昨年より開始した。活動の主体は期により異なるが、期が中心だったりクラブが中心となっているなど期によって異なっている。

意見として

*受け入れる団体のリストも必要ではないか。

*各学園が主体として行動するなら全体のデータを集める必要はあるのか

部会長より

ボランティア活動名簿は、変更、抹消、新規登録を増補版としてまとめたが、2分冊化して使用しにくいので、今年度の方針として、使いやすく改善する事を検討する。またその成果は電子媒体として配布できるようにしたい。主に検索しやすいように、編集しなおす。また、継続して調査も必要だが、時間と経費を考慮しながら、出来る範囲で行いたい。

先行事例集を作成する、その中身としては、新規活動希望者が始める時のガイドブックになるように項目を整備したものを作成する。掲載数も各連協で3~5程度とし容易に探せるようにする

意見として

電子媒体に頼ると、高年者としては、取り扱いが難しいので、必ずしも有効ではない

再調査や、編集を行うには、早く決めないと、今年度中に作業が終わらない。

使う側の要望も聞いておく必要がある

結果

(1)活動名簿を使い易くするには度の様になれば検討する。

(2)参考事例集を作る際、掲載出来る事例を各連協で次回に推薦する

(3)活動現場見学会を開催できる現場についても各連協で推薦する

開催予定 9月12日 13:30

11月24日 13:30

以 上